

三菱マテリアルのDNA

社会要請に応えて150年。今まで培った「強み」を最大限に活かし、さらなる企業価値向上を目指す。

直島製錬所(1932年)



超硬工具



ロスペランプレス鉱山



直島製錬所有価金属リサイクル施設



伸銅品熱間圧延工程



大沼地熱発電所



私たちの目指す姿

人と社会と地球のために、
循環をデザインし、
持続可能な社会を実現する

直島製錬所の開設、
当社グループの金属事業の原点

1871年に三菱グループのルーツである九十九商會が鉱業へ進出し、炭鉱・金属鉱山経営を始めたことが当社の出発点です。1917年には、当社の前身である三菱合資会社が直島製錬所を設置し、吉岡鉱山等の鉱石の製錬を開始しました。日本で初めてとなる反射炉から始まり、1974年に世界で初めて「三菱連続製銅法」を採用した銅製錬プロセスにより、飛躍的な進化を遂げ、近年のE-Scrap事業に象徴される世界トップクラスの製錬所、当社グループの重要拠点として今日に至っています。

加工事業、
タングステン研究の開始

三菱合資会社は、直島製錬所設立と同年の1917年に当社イノベーションセンターの前身である鉱業研究所を開設しました。設立当初は分析や選鉱を研究分野としていましたが、1920年代からはタングステンや超硬合金の研究を開始し、これが加工事業のスタートとなりました。当社グループでは、超硬工具の主原料でレアメタルのタングステンを、原料から製品まで一貫生産できるメーカーの特性を活かし、使用済み超硬工具のリサイクルに取り組むことで、原料の安定確保につなげています。

関連記事：

統合報告書▶加工事業
P40

海外銅鉱山投資、グローバル化で
さらなる飛躍へ

1950年代半ばになると、日本経済復興の速度が増し、増大する国内の銅への需要に対して安定した供給を行うため、海外鉱山開発にも取り組むようになりました。現在ではクリーンな銅精鉱の安定調達のため、海外銅鉱山に投資しています。1985年にはチリのエスコンディエーダ鉱山、1997年にチリのロスペランプレス鉱山、2009年にカナダのカッパーマウンテン鉱山へと参画しました。海外鉱山投資は当社グループの成長を大きく支え、中経2030においても重要戦略のひとつになっています。

関連記事：

統合報告書▶資源事業
P30

E-Scrap事業に進出、
世界市場をリード

2000年代に入り、直島製錬所は溶融飛灰再資源化施設と有価金属リサイクル施設を新設し、リサイクル事業に進出しました。溶融飛灰、自動車・家電シュレッダーダスト、廃基板等を受け入れ、これらを三菱連続製銅法等で処理し、銅や貴金属を回収しています。近年は原料集荷エリアを拡大し、世界中からリサイクル原料を受け入れるようになりました。銅製錬の技術から発展し、E-Scrap処理、家電リサイクルへと、リサイクル市場に大きく踏み出しました。

関連記事：

統合報告書▶製錬・資源循環事業
P31

高性能素材・製品供給の強化

大阪製錬所では金や銀の製錬だけでなく、銅加工品、電子材料、高純度材料等を生産していました。大阪製錬所の移転に伴い、銅加工品は堺工場、電子材料は三田工場、貴金属製錬は直島製錬所にそれぞれ事業承継されています。現在は、ルバタ社の各国拠点も活用した、銅合金の世界的な販売拡大に取り組み、また、電子材料は機能材料、電子デバイス、化成品、シール製品の4つの製品分野を手掛け、半導体関連やxEV向けの製品・ソリューションを提供しています。

関連記事：

統合報告書▶銅加工事業、電子材料事業
P36

再生可能エネルギー事業の展開

当社グループでは、旧尾去沢鉱山へ電力を供給するため、1898年から水力発電所の運転を開始しました。また、鉱山の掘削技術から発展させ、地下資源探査の技術を活かした地熱発電事業に40年以上にわたり取り組んできました。5か所の水力発電所、および3か所の地熱発電所に加え、太陽光発電やバイオガスパラントも展開し、再生可能エネルギー事業として持続可能な社会を実現していきます。

関連記事：

統合報告書▶再生可能エネルギー事業
P42

会社の歴史

1871 九十九商會が紀州新宮藩の炭坑を租借し、鉱業事業に着手
1873 三菱商會が吉岡鉱山を買収、金属鉱山の経営に着手
1893 三菱合資会社設立
1898 永田水力発電所運転開始
1917 鉱業研究所(現イノベーションセンター)、直島製錬所設置
1918 三菱鉱業(株)設立(三菱合資会社より鉱業関係の資産を継承)
1942 東京金属工業所(現筑波製作所)設置、切削工具事業に進出
1950 集中排除法により金属部門が分離、太平鉱業(株)発足(後の三菱金属(株))
1963 日本新金属(株)、小名浜製錬(株)設立

1973 岐阜工場(現岐阜製作所)設置
1974 スペイン三菱金属社(現スペイン三菱マテリアル社)設立
1976 大沼地熱発電所運転開始
1983 セラミックス工場設置
1984 米国三菱金属社(現米国三菱マテリアル社)設立
1985 チリ・エスコンディエーダ鉱山参画
1987 MMCエレクトロニクスタイランド社設立
1989 堺工場、三田工場設置
1990 三菱金属(株)と三菱鉱業セメント(株)が合併し、商号を三菱マテリアル(株)に変更

1991 (株)ジェムコ(現三菱マテリアル電子化成(株))設立
1993 MMCエレクトロニクスマレーシア社設立
1996 インドネシア・カパー・スメルティング社設立
1997 チリ・ロスペランプレス鉱山参画
1999 東日本リサイクルシステムズ(株)設立
2000 神鋼コベルコツール(株)(現明石製作所)買収
2008 三菱伸銅(株)を完全子会社化
2010 三菱電線工業(株)を完全子会社化
2013 ペルー・サフラナル銅鉱山開発プロジェクト参画

2014 MMCエレクトロニクスラオス社設立
2015 日立ツール(株)を連結子会社化、三菱日立ツール(株)に商号変更
2017 ルバタ社よりルバタ・スペシャル・プロダクツ・グループを取得
2018 ニューエナジーふじみ野(株)設立
2019 湯沢地熱(株)山葵沢地熱発電所運転開始
2020 三菱伸銅(株)を吸収合併し、若松製作所、三宝製作所設置
三菱日立ツール(株)(現(株)MOLDINO)を完全子会社化
2021 マントベルデ社を持分法適用関連会社化
2023 小名浜製錬(株)を完全子会社化

価値創造プロセス

私たちの目指す姿

人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

豊かな社会

循環型社会

脱炭素社会

当社のマテリアリティ

循環型社会の
実現地球環境への
貢献持続可能な
サプライチェーン
マネジメント

人権の尊重

労働安全衛生

ガバナンスの
維持向上人的資本の
確保と活用ステークホルダー
コミュニケーション

DXの深化

新しい
価値創造への
取り組み

投入資本

MMCのビジネス

OUTPUT

OUTCOME (提供価値)

製造資本

2023年3月末時点

維持更新投資額 **3,400億円** ^{※1}

電気銅生産量 **約53万t**

有形固定資産額 **4,262億円**

人的資本

連結従業員数 **18,576名**

年間教育時間総数(単体) **約11万時間**
(従業員1人当たり平均 約18時間)

知的資本

研究開発投資額 **96億円**

特許の保有件数 **2,858件**

イノベーションセンター、鉱業技術研究所等を
拠点とした機能複合化技術、素材複合化技術、
基盤・量産化技術、リサイクル技術等

社会関係資本

社会貢献関連費用 **約4億円**

展開している国・地域数 **31カ国(地域)**

自然資本

総エネルギー使用量 **約29,289TJ**

天然資源投入量 **約3,278千t**

社有林面積 **約1.4万ha**

財務資本

成長投資額 **5,600億円** ^{※1}
(DX関連投資額約420億円を含む)

資産合計額 **1兆8,917億円**

ネットD/Eレシオ **0.7倍**

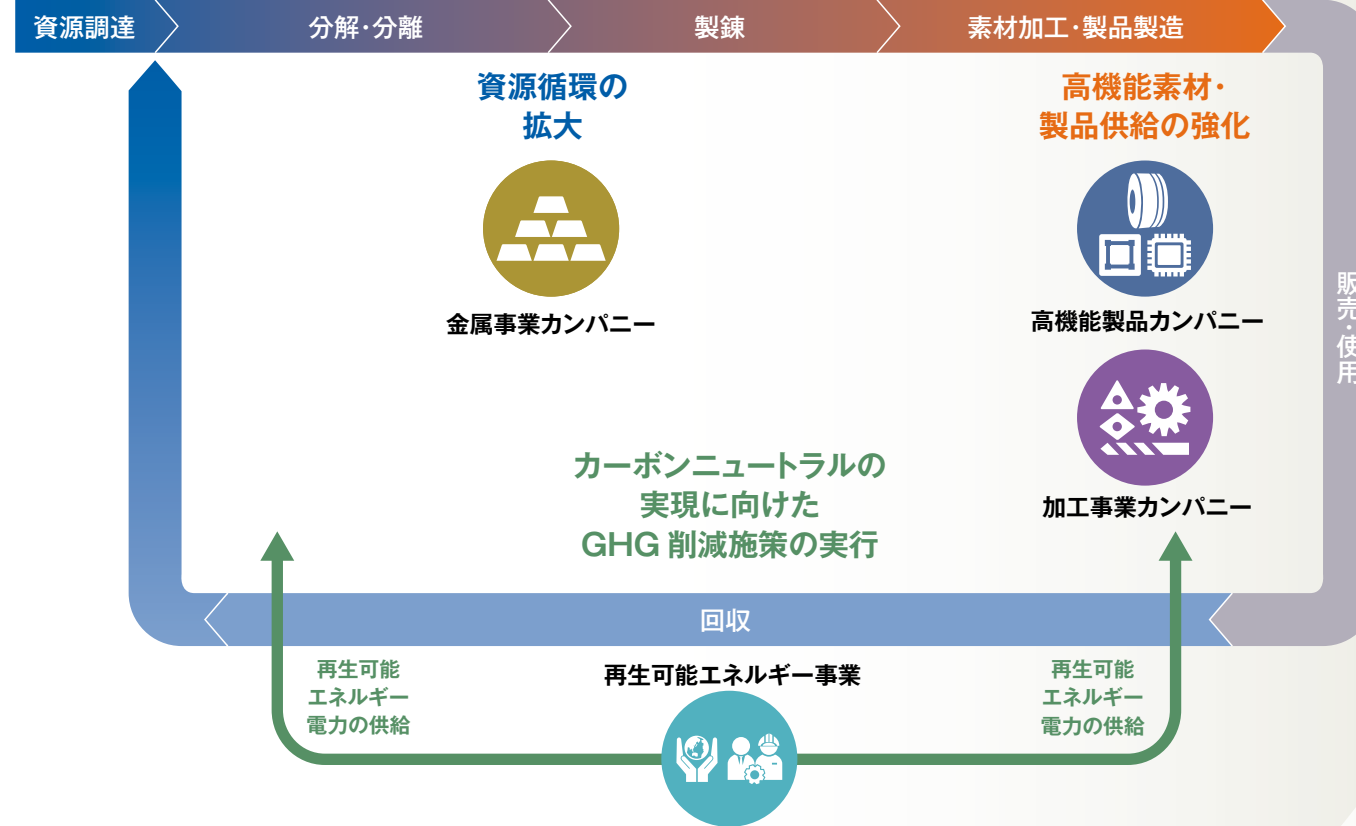
※1 中経2030での
2023年度～2030年度
までの累計計画

当社の強み

高付加価値の
銅製品を供給する
バリューチェーンE-Scrap・
超硬工具の
グローバルな
集荷ネットワーク高度な
リサイクル技術高機能素材・
製品の開発・
製造能力再生可能
エネルギーの
事業基盤人材・
組織風土・文化多面的機能を
保全した社有林

強みをもとに金属資源の循環を構築、対象範囲、展開地域、
規模の拡大により

バリューチェーン全体での成長を実現



中経2030 ▶ P22

事業戦略 ▶ P28

経営基盤 ▶ P46

ものづくり

研究開発

人事

DX

IT

ガバナンス ▶ P76

製品・サービス

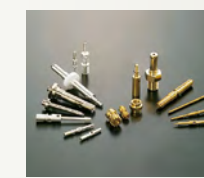
環境負荷の低い
製錬プロセスによる
非鉄金属素材製品



資源循環を実現する
リサイクルシステム



自動車・
エレクトロニクス産業向けの
高機能製品



低環境負荷、
高生産性を実現する
超硬工具製品・サービス



再生可能エネルギー



経済的価値

	2025年度計画	2030年度目標
売上高	19,400億円	20,000億円
営業利益	700億円	1,300億円
経常利益	870億円	1,800億円
ROIC ^{※1}	5.5%	9.0%
ROE	10.0%	13.6%
EBITDA	1,500億円	2,600億円
ネットD/E レシオ	0.7倍	0.5倍以下
ネット有利子負債/ EBITDA倍率	3.5倍	2.0倍以下

社会的価値

	2030年度	2045年度
GHG削減	45%以上 ^{※2}	カーボン ニュートラル
	2025年度計画	2030年度目標
E-Scrap類 処理能力	18万t	24万t
再生可能 エネルギー 電力自給率 (2050年度100%)	23%	25%
意思決定層に おける 多様性の確保	20%	30%

解決する社会課題とSDGs

- モビリティの高度化
- デジタルデバイスの高度化・多様化
- 生産・業務プロセス自動化
- 人・建造物の長寿命化
- 災害に対する有効な対策
- 都市廃棄物の効率的処理
- 鉱物資源の効率的な活用と代替物質
- エネルギー資源の効率的な活用
- 再生可能エネルギー・未活用エネルギー開発
- CO₂排出量削減



※2 2020年度比、Scope1+2

グローバル市場をリードする強み

1871年以降、炭鉱・金属鉱山経営を進め、1917年に当社グループの金属事業の原点となる直島製錬所を開設後、当社グループは独自の強みを形成しつつ、さらなる事業展開を進めてきました。

海外鉱山投資、銅加工事業への進出による銅を中心とした強固なバリューチェーンの構築だけでなくE-Scrapをはじめとしたリサイクル技術・ノウハウの向上も図りました。

また、国内での鉱山事業の知見・資産を活かした水力・地熱発電事業展開、社有林の活用・保全も進めています。

加えて、人材や組織風土・文化等の無形資産にも強みを持っています。

高付加価値の銅製品を供給するバリューチェーン

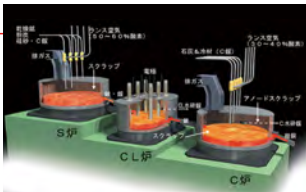
- 資源メジャーとの長期友好的な関係による海外銅鉱山への投資
- 高効率、低環境負荷で銅精鉱を製錬できるプロセス
- 強固な顧客基盤と国内トップの銅加工製品生産能力



マントベルデ銅鉱山(チリ)



受入・処理しているE-Scrapの一例



三菱連続製銅法



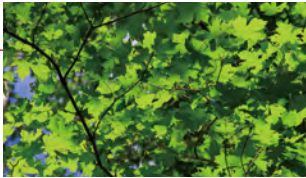
鉛フリー快削黄銅GloBrass®を使用した製品



安比地熱発電所(建設工事全景)



1-on-1 全社展開



早来山林のクロビイタヤ(絶滅危惧2類)

E-Scrap・超硬工具のグローバルな集荷ネットワーク

- MMメタルリサイクリング社(オランダ)等を活用したグローバルなE-Scrapの集荷網
- 国内における使用済み超硬工具の回収網

高度なリサイクル技術

- 三菱連続製銅法によるE-Scrapの効率的処理
- PGM(白金族金属)、鉛、錫等の多様な非鉄金属回収を実現するマテリアルグリッド体制
- 幅広い再資源化を可能にする家電等の自動解体、選別処理技術
- 超硬工具スクラップ等から回収したタングステンをリサイクル原料とする技術・ノウハウ

高性能素材・製品の開発・製造能力

- 無酸素銅、銅合金、鉛フリー黄銅等の開発、製造
- 半導体製造装置向け部材(柱状晶シリコン、シール製品)の供給
- 素材とコーティング技術を活かした高効率超硬工具製品の提供

再生可能エネルギーの事業基盤

- 地熱資源に関する高度な探査・解析技術
- 地熱発電、水力発電等の長年にわたる事業経験

人材・組織風土・文化

- 多岐にわたる職種や多様な専門性を有する人材
- 課題解決に向け結束できるチーム力
- 経営層と従業員、同僚同士の相互信頼

多面的機能を保全した社有林

- 社有林の適切な整備・管理による生物多様性の保全、持続可能な森林経営(SGEC認証取得)
- 教育・地域交流の場としての社有林の活用
- 社有林産木材の建築材としての活用

マテリアリティ

当社は、さまざまな観点から課題要素を抽出し、それぞれのステークホルダーにとっての重要度と当社グループの「私たちの目指す姿」に照らした重要度の2軸で整理しました。

マテリアリティの評価は、戦略経営会議や取締役会において重要度の議論を重ね、優先順位付けを行いました。

その結果、特に重要度の高い4項目の重点マテリアリティを含む10項目のマテリアリティを設定しました。

選定・展開のプロセス

STEP 1

課題の把握

最新の社会・環境・経済動向および当社が関連する市場動向や当社グループの中長期的な企業価値向上への取り組みの観点から社会課題を選定し、国際的なガイドラインや原則も考慮し、課題要素を抽出。

STEP 2

課題の整理、評価

それらの課題要素に加え、2020年度に制定したマテリアリティを含め、多様なステークホルダーそれぞれにおける重要度と、当社グループの「私たちの目指す姿」に照らした重要度の2軸で整理。

全執行役および取締役により整理された課題と、それぞれの課題に対する重要テーマについて、ステークホルダーと当社における重要度の観点で議論、評価。

STEP 3

課題の特定

2軸での重要度が「非常に高い」から「高い」までの課題を優先順位付けし、2020年度に制定したマテリアリティおよび重要テーマを見直し、再定義。

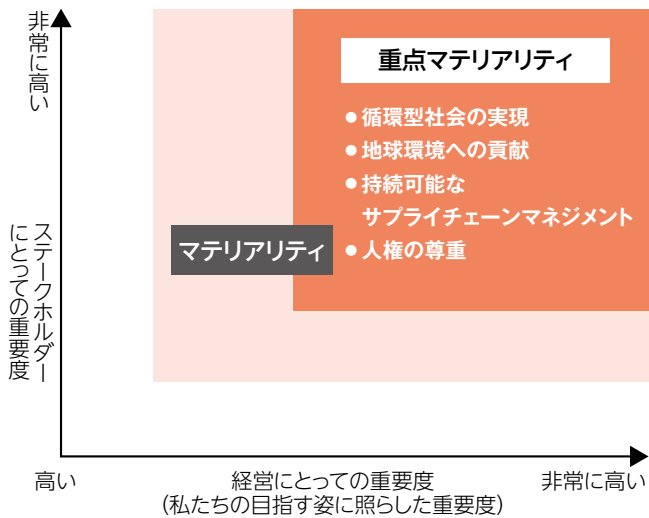
特に重要度の高い4項目を「重点マテリアリティ」と設定。

STEP 4

取り組み内容、目標の設定

再定義したマテリアリティおよび重要テーマに対する取り組み内容と目標を設定。

取り組みの進捗状況・実績を定期的に開示。



マテリアリティ
循環型社会の実現
地球環境への貢献
持続可能なサプライチェーンマネジメント
人権の尊重
労働安全衛生
ガバナンスの維持向上
人的資本の確保と活用
ステークホルダーコミュニケーション
DXの深化
新しい価値創造への取り組み

マテリアリティに対応する取り組みと目標

当社グループは、再定義したマテリアリティと重点テーマに対する取り組み内容と目標を設定しました。
社会的価値と経済的価値の両立による企業価値向上を目指していきます。

関連記事：

サステナビリティレポート
▶マテリアリティへの取り組み
<https://mmc.disclosure.site/ja/>

「サステナビリティレポート2023」2023年8月末公開予定

マテリアリティ	重点テーマ	主な取り組み	目標等
循環型社会の実現	リサイクル可能な製品の開発・提供	グローバルでの使用済み超硬工具回収、リサイクル処理能力の確保	リサイクル原料比率　2030年度　80%以上
	高度なリサイクル技術による廃棄物の再資源化	E-Scrap類の処理拡大によるリサイクル率アップ	2030年度　E-Scrap類処理能力24万t体制の構築
地球環境への貢献	脱炭素への取り組み	再生可能エネルギー電力拡大、技術改善・開発、省エネ、外部技術の活用等によるカーボンニュートラルの実現	2030年度まで　再生可能エネルギー電力拡大、技術改善、省エネ 2030～2045年度　技術開発、外部技術の活用 2045年度　カーボンニュートラル
	再生可能エネルギーの開発・利用促進	地熱発電開発体制の構築と事業拡大、風力を中心に新規再生可能エネルギー発電への展開	再エネ電力自給率　2025年度　23%、2030年度　25%、2035年度　66%、2050年度　100%
	再生可能エネルギーの開発・利用促進	森林の公益的機能向上や将来的な収益改善に向けた適切な森林整備、木材資源や地域レクリエーション等にも貢献する森林資源の有効活用	社有林での自然共生サイトの認定取得により、国際目標である30by30目標の達成に貢献
	環境負荷低減と環境汚染防止	環境法規制の遵守、法令教育の徹底 環境課題に対応するための情報の共有、個別案件のリスクの見える化、リスク管理 電子マニフェストの活用による当社直轄拠点での各種排出量の集計・解析・情報提供	操業における環境負荷低減と環境事故防止のための、中長期的観点からのリスクの見える化・リスク管理 生産プロセスの改善や環境災害発生リスクの低減
持続可能なサプライチェーンマネジメント	原材料の調達多様化	国内および海外展開の加速 (E-Scrap、銅スクラップ、家電・自動車リサイクル)	2030年度　国内リサイクルセンターの構築、家電リサイクル国内シェア30%、自動車リサイクルプラント新規拠点構築
	銅を中心とした非鉄金属素材の提供	電気銅生産能力の拡大による顧客とのネットワーク強化	2027年度　直島製錬所での銅精鉱とE-Scrap類処理能力増強 2030年度　銅鉱山における湿式製錬への参画
		国内No.1伸銅品メーカーの圧倒的な地位を確立	2030年度　xEV用端子・バスバー販売CAGR 4.3%、生産能力+1,800t/月(2021年度比) 自動車用端子・バスバー販売CAGR 3.7%、生産能力+1,100t/月(2021年度比)
	付加価値の高い機能材料・製品の提供	電子材料において事業部全体を横断する研究開発体制を立ち上げ、特に半導体周辺材料・部材での新事業や新製品探索を加速	2023年4月　横断的な研究開発体制を立ち上げ 2023～2030年度　新事業・新製品の探索を強化、半導体材料・部材を中心とした事業および技術の開発
人権の尊重	個の尊厳と基本的人権の尊重	方針によるコミットメント、人権デューデリジェンスの実施、救済措置の実施	人権に関する国際規範を尊重し、リスクを把握、課題を改善していく仕組みを構築 2023年度　人権デューデリジェンスの仕組み構築・推進、実施計画・ロードマップ策定、救済措置制度拡充の検討・体制強化
	バリューチェーンにおける人権の配慮	サプライチェーンでの人権尊重、責任ある鉱物調達	人権に配慮したバリューチェーンの構築および公正な取引の実施 2023年度　サプライヤー評価を通じたリスク評価と抽出された高リスク先への対応、責任ある鉱物調達認証の維持(金、銀、錫、タングステン)と取得(銅、鉛)
労働安全衛生	労働災害の未然防止	リスクアセスメントによる設備安全化の徹底(継続)、火災・爆発等事故の撲滅	休業4日以上災害ゼロと火災爆発等事故ゼロの長期継続
	心身ともに働きやすい職場づくり	健康経営の推進強化	「健康経営優良法人ホワイト500」および「健康優良企業 金の認定」の取得
ガバナンスの維持向上	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス違反重要案件撲滅に向けた施策、コンプライアンス意識の向上施策、海外コンプライアンスの強化	重大なコンプライアンス違反の撲滅
	グループガバナンスによる内部統制の拡充	ガバナンスレビューやガバナンス情報共有会議の実施、グループリスクマネジメントによるリスク評価と対応	全社の戦略・方針に従い自律的に活動し、相互のコミュニケーションを通し内部統制が適正に機能する組織 2024年度からリスクベース監査導入の検討
	コーポレートガバナンスの強化	取締役会実効性評価による課題整理と改善策の実行	当社の中長期的な競争優位性、指名委員会とほかの取締役との間の情報共有、人材戦略に係る取締役会の監督、各委員会の機能向上
人的資本の確保と活用	人材確保と育成	事業成長を実現する人材の育成・確保(経営リーダー候補の継続的育成・確保)	執行役後継候補に占める次世代経営人材育成プログラム選抜者比　2025年　70%、2030年　80%
	ダイバーシティ&インクルージョン	多様な人材と価値観の融合による変革の加速	管理職層における多様な属性(女性、外国人、経験者採用、障がい者)の割合　2025年　20%、2030年　30%
	柔軟な働き方の推進	Well-being推進を通じた働きがいの醸成(エンゲージメントの継続的向上)	エンゲージメントサーベイ肯定的回答率　2025年　75%、2030年　80%
ステークホルダーコミュニケーション	ステークホルダーとのエンゲージメント	「私たちの目指す姿」の認知・理解浸透を活動の主軸とし、既存施策の枠組みを最大限に活用し、社内外に展開	従業員向け目標　2023年度　「私たちの目指す姿」の認知度70%(2022年度56.4%) 2030年度　「私たちの目指す姿」の目分ごと化
	顧客満足の向上	「より良い製品とサービス」を提供、品質マネジメント活動の一環として「お客さま満足度調査」の実施、クレーム情報の分析	当社グループのブランド資産としての「品質」を確立
	地域社会との対話・共生	地域社会貢献活動の推進	社会貢献活動実績調査結果の開示、新入社員の社会奉仕活動
DXの深化	業務プロセスの変革	ペーパーレス化・印鑑レス化の徹底、業務統廃合の推進、ITツールやスマートフォンの活用によるコミュニケーション改革	業務の最適化により従業員一人ひとりが本来業務に能動的に取り組める状態を維持し、意思決定の早い機能的かつ機動的な組織を実現する
	オペレーション強化	IoT、AI等のデジタル技術を活用した製販連携強化、攻めの品質、ものづくり力別格化	2025年度～　グローバルでの切削工具需給管理の運用を開始し、段階的に適用拠点・製品を拡大 2030年度まで　工程・プロセス技術改善やスマートファクトリー化等を通じたものづくり力強化
	新たな付加価値の獲得	顧客や社会のニーズを基にした、顧客接点高度化、ビジネスモデル変革 ●製錬・資源循環事業：E-Scrapビジネスプラットフォーム(MEX)の機能強化 ●銅加工事業：原価管理高度化 ●加工事業：DXを活用した切削加工ソリューションの深化	2024年度～　最適切削工具選定のサービスを提供開始、切削加工ソリューションを拡充 2025年度　MEX顧客満足度向上によるサプライチェーン強化 2026年度まで　原価計算迅速化、細粒度の可視化による製品別戦略強化
新しい価値創造への取り組み	イノベーションの創出	育成事業を継続的に創出するための新規事業創出プロセスの構築と実行(テーマ数増加、事業化推進、新規事業グロース)	2023年度　アクセラレーションプログラムを公開 2027年度まで　組織体制を整え、継続的な新規事業創出とM&A等の投融資戦略を実行 2030年度　一定規模の新規事業を複数運営
	社会的価値の探求と創出	レアアース、レアメタルリサイクル事業の創出	ブラックマス処理量　2025年度　900t/年、2027年度　3,000t/年、2030年度　6,000t/年
	ものづくりの追求	ものづくり力強化の基本方針の実行(体質強化、基盤強化、技術開発・改善をPDCAサイクルにより、ものづくり力を強くする)	中経2030に基づく事業・工場ビジョンからの課題設定・解決および工場実力評価を追求し、ものづくり力の革新への挑戦=「別格化」の継続